

## わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

〔「わたしの平和宣言」は、1998年に開かれた国際人権会議に集まった、ノーベル平和賞受賞者が起草した6項目の誓い。項目のタイトル部分〕

## 第24回



受賞者の皆さん  
おめでとうございます

において共通のテーマ「みんなが住みたくなる町、落合・I(アイ)・愛」を掲げ、学年ごとに課題を設定し探究活動に取り組んでいる。3年生は畑に関わる農家の願い、4年生は再び蛍が舞う落合にするための自然と環境について、5年生は落合の未来の町づくり、6年生は防災について調査活動を行っている。児童が地域の人々とつながりながら故郷に愛着を持ち、町をより良くしようと考え、行動することを大切に自然、環境、福祉、防災にかかわる取り組みを継続している。また、「落合っ子防災フェスティバル」を実施し地域への発信を行うことで、主体的に地域にかかわろうとする態度を育てる一助となっている。

## ■広島市立梅林小学校

(校長 岩本 和貴)

この学校は、2014年8月広島市北部を襲った豪雨により、甚大な土砂災害の被害を受けた。その後、被災から得た教訓や経験をもとに総合的な学習の時間や、道徳科・社会科・理科の時間を中心に防災教育に取り組み7年が経過した。

児童、保護者、地域住民の思いを大切にしながら、地域の自主防災会や地域住民の協力のもと、それぞれの学年に応じたテーマを設定して活動している。学区の歴史や育まれてきた文化を次の時代に伝え、被災の体験を風化させない「つなぐ」とい

## ウクライナ危機に関する声明

ウクライナは今、ロシアの一方的な侵攻により多数の国民が犠牲を強いられている事態にあります。

これは、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というUNESCO憲章の精神を著しく踏みにするものです。

ロシア政府は、ユネスコ憲章の精神に立ち戻り、核の使用も匂わせながらの武力による問題解決を直ちに中止し、話し合いによる平和的解決を図るよう強く求めます。

被爆都市にある広島ユネスコ協会として声明を發出します。

2022年(令和4年)3月1日

広島ユネスコ協会

会長 松岡 盛人

(関連記事 4頁)

う思いや、命を守る行動をとることの大切さ「きずな」について考える等、地域への愛着を育み、児童自ら考えを深めることを学習の中心に据えて取り組んでいる。

## ■広島県立安芸府中高等学校

(校長 高橋 真)

1991年に国際科を新設して以来、全教育活動を通してグローバルな社会問題を自分事として捉え、地域社会や国際社会に貢献し、持続的な平和や発展に寄与する人材を育成することを目指した教育活動を推進している。

具体的には、オールイングリッシュによる英語運用能力の強化・向上をはじめ、ICTを活用した海外の高校

広島ユネスコ協会は、国際理解や交流、地域連帯等の活動を積極的に推進している3校と5団体に「広島ユネスコ活動奨励賞」(第24回)を授与しました。2月に表彰状と記念のトロフィーを届けました。ここに、活動の概要を紹介します。

(教育部会長 坂本美智子)

【学校部門】 広島市立落合小学校 広島市立梅林小学校 広島県立安芸府中高等学校

【社会部門】 特定非営利活動法人・ANT-Hiroshima 生活資料館・ハワイ移民資料館「仁保島村」 広島市防災士ネットワーク 古川トンボしらべ隊 坊田かずまの会

## 【学校部門 (3)】

## ■広島市立落合小学校

(校長 岡田 泰)

この学校は、2019年度から全学年

や大学との異文化間交流活動や、姉妹校提携による学校情報の交流・留学生の人的交流・ホームステイによる異文化体験の充実等に努めている。また、サマーセミナーでは平和記念公園内での英語ガイドやオーストラリア研修旅行を実施し、グローバルリーダーとしての資質・能力・実践力を培っている。

※グローバル……グローバル + ローカル



## 【社会部門 (5)】

### ■特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima (理事長 渡部 朋子)

1981年に法人化し平和都市広島を拠点に、国内外の人々やNGO等とのネットワークを築き、世界の恒久平和の実現に向けた幅広い活動を展開して今年で33年目を迎える。具体的な活動として、佐々木禎子さんを題材にした絵本を世界各国の言語に翻訳して送る取り組みや、被爆体験を次世代に伝えるためのDVD制作、被爆樹木を守り種や苗を国内外に送る活動への参加等多岐にわたる。また、ヒロシマを受け継ぐ教育として朗読会・被爆体験継承塾の開催及び平和の担い手の育成を目指す、インターンシップ・ボランティアの受け入れ事業等にも取り組んでいる。

これらの活動を通して多くの組織や団体と連携して被爆の実相を伝え、核廃絶や国際協力等ヒロシマの平和推進活動にも大きく貢献している。

### ■生活資料館・ハワイ移民資料館

〔仁保島村〕 (館長 川崎 壽)

この資料館には、明治時代に行われた日本人のハワイ移民に関する歴史や生活と、多くの苦難を乗り越え

た叡智を伝えるための文献や展示資料が数多くある。生活資料館として、昔の生活用具や貴重な資料を無料で開放し、実際に小学生が使用する体験を通して、先人の知恵を学ぶ体験学習の場ともなっている。さらに、これまで30年間行ってきた移民の調査をまとめた『ハワイ日本人移民史』は、専門家や研究者からその内容や資料の豊富さを認められ高い評価を得ている。また、多くの公民館や学校で講話も行っており、自国の文化を大切にしながら、異なる文化・歴史を持つ人々と相互に認め尊重し合って生きていく、共生社会への実現に向け幅広く地道な活動を続けている。

### ■広島市防災士ネットワーク

(代表世話人 柳迫 長三)

これまで、幾度となく広島を襲った大規模災害を契機に、2015年1月に広島市の防災士が結集し、防災士相互の研修及び各自のスキルアップと防災知識の普及を目的に結成された。現在、約130人が所属している。

毎月実施される研修会では、広島市危機管理室職員や地球環境学の大学研究者、他県災害被災地の防災・復興活動団体メンバーなど多彩な講師を迎えて、高度で専門的な知識・技術の向上を図っている。

また、市民対象の事業として市民防災講座や防災まち歩きを主催し、各区において防災訓練・防災フェアを開催している。被災地の体験談を紹介するなど来場者の防災意識を高め、学区等の防災訓練の指導や研修・講演の講師を務めるなどの地域活動も行っている。

### ■古川トンボしらべ隊

(代表 西村 浩美)

公民館が開催したトンボの観察会で、ミヤマアカネやゲンバイトンボ

など絶滅危惧種の淡水生物や植物が、地元を流れる古川に生息していることを知り、2018年結成された。活動の目的として、古川のトンボ相とその生態を解明し、自然環境の魅力を発信することにより、地域住民や行政関係者の水辺環境保全意識の高揚を図ることとしている。調査活動は毎年3月から12月まで、昆虫の専門家の指導を受け実施されており、トンボは現在までに42種類が確認されている。

構成メンバーは小学生から高齢者まで幅広く、現在の会員は28名である。子どもたちの自然や生き物に対する関心を高め、将来自然環境保全に携わる人材の育成も視野に入れて活動している。

### ■坊田かずまの会

(代表 山中 龍馬)

坊田かずまは、昭和初期に活躍した熊野町出身の童謡作曲家であり、器楽合奏等日本の音楽教育の先駆者である。没後60年間、埋もれていた遺品資料が見つかったことを契機に、坊田かずまの優れた業績を顕彰するとともに、作品の収集、研究、保存及び普及を図ることを目的として2001年に結成され、以来20年間活動を継続している。

その活動は、熊野町からの賛同を得て、歌碑の建立を行い、会報紙『くれがた』の発行や、遺品資料から坊田かずまの全体像の調査研究を行っている。これまで『坊田かずま作曲選集』を6巻発刊している。また、無料コンサートを開催し、箏の演奏などで作品の紹介を行い、出版物も無料の奉仕活動として町民に寄与し、地域の活性化に貢献している。



## 講評

選考委員会委員長

(広島大学大学院教育学研究科教授)

由井 義通

第24回広島ユネスコ活動奨励賞を受賞された皆様、おめでとうございます。2020年の春以降、長く続くCOVID-19の世界的で深刻なパンデミックの状態の中、今年もこの事業が継続されましたことは、事業の企画運営をされている広島ユネスコ協会の関係の皆様のご努力の賜物と思います。また何よりも学校や市民によるユネスコに関連した活動が継続して行われたことは大変素晴らしいと思います。

本賞の選考にあたってはユネスコ精神の理念を踏まえた「平和の文化」を築く実践的な活動の育成という趣旨に基づいて、継続性や独創性、普及状況などの項目をもとに活動内容について審査を行いました。応募と推薦された団体が14件、そのうち審査対象の件数は学校部門が5件、社会部門が5件でした。昨年と比較して審査対象の件数は少し増加しました。審査会での評価の観点、活動が創意工夫に溢れた独創的な活動であるか、3年以上の継続した活動で、年間を通して複数にわたって活動しているか、ある程度の参加者数の規模で社会や地域への影響が大きい広がりを持った活動か、などを総合的に判断しました。また、単なる学習活動や地域活動ではなく、それぞれの活動がユネスコの理念とどのように関連しているかという観点も重視しました。

最初に学校部門ですが、広島市立落合小学校の「みんなが住みたくなる落合」の活動は、地域の人たちとつながり農業をしたり、蛍の飼育、地域づくりなど多彩な活動を組み合わせた点が評価されました。また広島市立梅林小学校も地域と連携した防災活動に取り組んだことが評価されました。広島県立安芸府中高等学校は「広島発国際人の育成」をテーマとして海外の学校との交流事業が評価されました。防災や国際交流というテーマは違いながら、いずれも持続可能な社会づくりという観点は、ユネスコが担ったESDの実践といえますが、少しだけ残念に思いますのは、個々の取り組みや活動がユネスコの理念を意識的に反映していなかったことです。素晴らしい活動であるがゆえにユネスコの崇高な理念とつながるように意識されたら、活動

の目的が明確化されてさらに素晴らしいものになるのではと思います。生徒と地域が連携した活動は、地域社会の担い手づくりにおいて期待ができますので、地域社会の担い手育成を社会や地域の持続性として位置付けることによって、ユネスコ活動とつなげることができます。ますます充実することを期待しています。

次に社会部門ですが、「特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima」による佐々木禎子さんの『おりづるの旅』の翻訳などの平和教育活動、「生活資料館・ハワイ移民資料館『仁保島村』」による移民資料の展示、「広島市防災士ネットワーク」による自主防災活動の支援、「古川トンボ調べ隊」によるトンボの自然観察会と絡めた自然保護と自然学習の取り組み、童謡作曲家の坊田かずまの資料保存を中心とした「坊田かずまの会」による歌碑探しなど、多文化共生、環境保全、平和、地域づくりに関連した活動が評価されました。特に、地域と住民、学校、行政などの多様なステークホルダーと相互につながり合いながら活動がされていて、次世代の担い手育成が図られていることを高く評価しました。

学校部門と社会部門のいずれにおいても素晴らしい活動をしているのですが、もったいないことに、個々の活動が地域や社会に対して意義があるのかをアピールしていません。学校あるいは地域コミュニティによる国際交流は、素晴らしい活動を仲間内の閉じた関係に留めるのではなく、地域社会にアピールすることによって活動の輪を広げることも大事になっていると思います。今回、受賞された学校や団体の活動にかかわる皆様方には、この奨励賞をきっかけにして、国内外の人々とのネットワークを広げたり、次の世代の担い手を育成するなど、活動の新たな広がりや取り組みへとつなげていただくとともに、国内や世界に向けて発信して欲しいものです。皆様方のますますのご活躍を祈念しております。

2022年2月5日(土)

## 高校生国際理解セミナー

## Challenge for Building Your Future to Develop SDGs

令和元年から「高校生国際理解セミナー」では、SDGsをテーマに多角的な視点で取り上げる企画を考えている。今年も高校生がセミナー参加体験によってSDGsの目標達成の為に“ひとりで、またみんなで”出来ることを見つけ行動する力をつける契機となることを願って、基調講演とグループディスカッションのファシリテーターをユニタール広島事務所の鳥津準子氏に、高校生発表をノートルダム清心中・高等学校と広島県立海田高等学校の生徒さん達にお願いをした。グループディスカッションの時間を1時間10分と例年より長く取り活発な意見交換を期待した。

参加高等学校11校、参加高校生26名(うち男子3名)と保護者の方3名と、コロナ感染拡大防止の状況下にも拘らず多くの参加者があった。(会場の都合上、参加者数を調整)

自分の見ていることを人に正確に伝えることの難しさ、また言語が異なれば更にその難度が上がることなどをゲーム形式で体験し、他校の生徒と意見交換が出来て高校生た

ちは生き生きとして見えた。

その後のアンケート結果では、「高校に学んだことを持ち帰り、これからの未来に向け、もっといろんな活動がしたい」「講義や発表がとても良かった。グループディスカッションで平和について深く考えることが出来た」「社会で生きていく上で様々なことを視野に入れて考えていきたい」などの意見が大半であった。新型コロナウイルス対策のため、セミナーで学んだことを、午後の世界寺子屋運動街頭募金活動の体験につなげることができなかったのが残念であった。



(2021・12・19開催)

青少年育成部会長 横佩 智恵)

## 広島ユネスコ協会 発足50年へ

### 全国高校ユネスコ研究大会

記憶に残る広島開催

協会副会長 藤井孝行

17年前（2005年）、広島で開催された被爆60周年記念、第51回全国高校ユネスコ研究大会は、広島ユネスコ協会（広島ユ協）にとって「協会発足50周年」を迎える中で、思い出に残る支援活動の1つとなっています。

この大会は、平和を希求するユネスコの理念に基づいて、8月6日をメインに、3日から6日にかけて、広島平和記念資料館メモリアルホールと江田島青年の家の2会場で開催されました。高校生たちは人類史上初の原爆投下の被害を乗り越えて復興した広島に集い、平和式典に参列。世界遺産・原爆ドーム、宮島・厳島神社の見学も交じえ、大会では世界が抱える紛争や貧困、人権、環境問題などさまざまな観点から、全体会や分科会で真剣に意見を交換、討議しました。

定員200名に対し、予定を上回る220名が参加。韓国・ユネスコ大邱協会から30人の高校生が来広、市内在住の留学生も参加するなど、大きな成果を収めて終了することができました。

もともと企画運営は、全国高校ユネスコ活動指導者協議会の先生をはじめ、開催地広島の高등학교の先生、高校生実行委員会が進めることになっていました。しかし当時、広島市内の高校でユネスコクラブがあるのは広島大学附属高校1校という状況で、他の地元高校の協力がなければ運営は困難な実情がありました。

そこで広島ユ協は、2003年に、大会成功を期して支援組織・準備委員会を立ち上げることを決め、教

育部会や部会長会議を再三開く一方、具体化に向けて廣大附属高校の先生方とも会合を重ねました。

04年3月には日本ユネスコ協会連盟から担当者を招き、実行委員会の立ち上げについて協議。4月、広島高校生ユネスコ大会支援委員会を結成し、第1回全国高校ユネスコ研究大会実行委員会を開催。大会要項・概要などを煮詰め決定しました。

広島大会の前年には、熊本県で第50回研究大会（大会テーマ「海と山とが紡ぐ『いのち』との出会いin水俣」）が開かれ、廣大附属高校の生徒7名と、3名の先生（クラブ顧問であった藤原隆範・広島ユ協理事含む）、山本隆信・同事務局長が参加して、熱心に情報共有や意見交換を行い、用意周到に開催に備えました。

大会本番までは高校教師や広島ユ協役員が運営準備に当たりましたが、当日は高校生主役で、ユネスコ協会関係者と先生は陰で支え、見守り役に徹しました。

なお、この大会は広島大会の翌年に開催された、第52回沖縄大会で終了しましたので、より記憶に残る大会となりました。

広島ユ協は、これからもユネスコの平和の理念を若い世代に継承すべく、活動を推進してまいります。



全体会風景



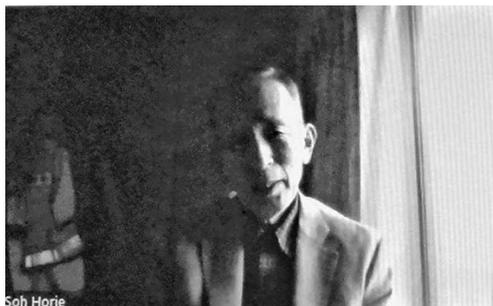
生徒実行委員長の挨拶

## 広島ユネスコサロン

堀江さんが講演

「第179回ユネスコサロン」は、2年5カ月ぶりに、3月5日にオンラインで開催された。被爆者の堀江壮さんが4歳10カ月の目で見た惨状は、心の奥に深く刻み込まれ、70数年を経ても色褪せてはいなかった。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という、ユネスコ憲章の言葉が心に重く響いた講演であった。

（文化部長  
高田 幸子）



## ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金

ロシア軍によるウクライナ侵攻に伴い、これまでに200万人のウクライナの人びとが周辺諸国に流入し、難民状態にあります。

日本ユネスコ協会連盟は、ウクライナ難民支援を開始しました。皆さまの温かい募金のご協力をお願いいたします。

【募金受付期間】2022年3月4日～5月31日

【銀行振込】みずほ銀行恵比寿支店

普通 1128426 シャ)ニホンユネスコキョウカイレンメイ

【郵便振替】00190-4-84705

加入者名：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

※通信欄に「ウクライナ」とご記入ください